

③ 古墳

古代のリーダーたちのお墓をめぐる

(村史22P～26P、70P～84P ふるさと～63P、68P～71P)

座光寺の古墳分布図

座光寺には77基の古墳があったと記録されています。竜丘に次ぐ古墳地帯で密集度の高さが特徴です。高岡1号古墳を中心に54基以上、土曽川沿いの低地、宮ノ前・唐沢洞に11基、低位段丘先端部に8基と、3地区に集中し、上段には2基のみでした。

現存する古墳は20基弱で、前方後円墳3基(高岡1号古墳、北本城古墳、新井原12号「帆立貝式」)、ほかはすべて円墳です。また、高岡1号、畦地1号、北本城古墳は渡来(朝鮮)系古墳であることが知られています。自然河川などの水利に恵まれた稲作により、安定した生活が営まれていたことに加え、当時の畿内王権と深く関わった馬生産活動発展の中で、最新の古墳文化を受け入れた土地柄であったためと思われます。

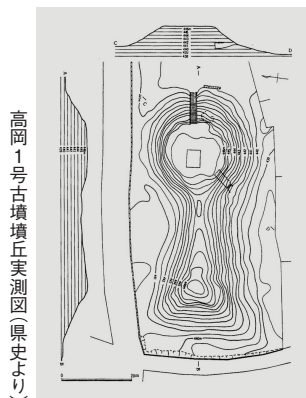


高岡1号古墳(県史跡) たかおかいちごうこふん

飯伊地区最大級の前方後円墳(長さ72.3m、高さ6.3m)で、6世紀前半の築造と推定され、築造時の原型をよく残しています。石室の全面を朱で彩色したものと考えられ、壁面の一部に朱の痕が残っています。石室の構造が朝鮮半島の大邱地方の古墳に似ています。最近になって周溝があることが確認されました。出土品は多数あり、一部が麻績史料館に保管されています。



古墳石室内部



高岡1号古墳墳丘実測図(県史より)



高岡古墳・新井原古墳 巡回ルート例

高岡1号→平地2号→畦地1号→畦地2号→石行2号→新井原12号(帆立貝式)→新井原11号(経塚)

畦地1号古墳(市史跡)

あぜちいちごうこふん

畦地古墳群6基のうち、現在残っているのはこれのみです。墳丘は東西15m、南北19.8mほどの円墳。石室構造は朝鮮系で6世紀前半の築造と推定されます。出土した銀製の垂れ飾り付き長鎖式耳飾りは日本ではとても珍しく、朝鮮半島で多く発見されています。



長鎖式耳飾り



石行2号古墳

いしぎょうにごうこふん

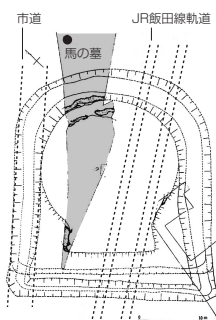
旧飯田工業高校から南東に50mほど離れた小高い丘にあり、東西18.3m、南北18.7mほどの円墳で、竪穴式石室の可能性が高いとされています。出土品には変形四獣鏡、鉄器類があります。



新井原12号古墳

あらいばら
じゅうにごうこふん

5世紀後期築造の帆立貝式古墳(周溝を含む全長36m)で、竪穴式石室をもっていました。飯田線と市道で両端が削り取られ中央部のみ残っています。短甲、鉄鏃、埴輪などが出土しました。周溝外から馬具を伴った馬の墓、また縄文時代の粉痕のついた土器が発見されました。



新井原12号古墳
帆立貝式墳丘推定図



平地2号古墳

ひらちにごうこふん

平地古墳群は高岡1号古墳の西側台地上に12基の円墳からなりますが、残っているのはこれだけです。石室が露出し、南西向きに横穴式石室が開口しています。東西10.15m、南北9.6m。管玉、金環が出土しました。



新井原11号古墳(経塚)

あらいばら
じゅういちごうこふん

高岡1号古墳に次ぐ大きな古墳と伝えられ、明治期に石室が発見されましたが、その後破壊されたといわれています。直刀、金環などが出土しました。また、青石に梵字が書かれた中世の経石がたくさん出土したため、経塚ともいわれています。



石塚1号・2号古墳

いづかいちごう
にこふん

座光寺公民館横にある横穴式石室をもつ円墳で、6世紀後半に造られました。1号古墳の径は21.8mです。石室の構造は当地方の典型ですが、その大きさは座光寺では最大で、2号古墳も同規模です。円形埴輪、須恵器などが出土しました。1号墳頂に「石塚桜」があります。



古墳時代の馬の墓域

こふんじだいの
うまのほいき

平安時代の役人の墓域

へいあんじだいの
やくにんのほいき

高岡4号・新井原2号の周溝、新井原・石行遺跡で馬の骨や馬具が発見されました。また新井原・石行遺跡では後の平安時代の蔵骨器も発見され、上級の役人たちの墓場だったことがわかります。ここでは8世紀前後製作の押出仏も出土し、お堂のような建物があったと考えられます。(ふるさと～73P 遺跡18P参照)

最見塚(最後塚)

さいみづか

径22m、高さ4.5mの墳丘で、南側に帯状の平坦部をもつ、二段構えの特殊な形態が残る円墳です。石室の有無はよくわかっていません。円筒埴輪、土師器、須恵器が出土しました。墳頂に桜の木、根元には宝篋印塔2基と五輪塔の一部が置かれています。



井下横古墳(矢塚)

いのしたよここふん

原地籍にあり、上段最高地に位置する古墳です。円墳の墳丘・石室は壊され、径15m、高さ2mほどの土盛りが残されています。出土品には金環、銀環、土師器、須恵器などがあります。



北本城古墳

きたほんじょうこふん

前方後円墳(全長約24m)。昭和56年、座光寺小学校建築時に発掘調査され、石室のみ移転・保存されています。土師器、須恵器、金属器、埴輪などが多数出土しました。石室の構造は朝鮮系で、6世紀前半の築造と推定されます。(城・館跡30P参照)